

6.2.2 学生の受け入れ

【評価項目 5-0-1】 入学者受け入れ方針等（門戸開放）

（必須要素）他大学・大学院の学生に対する「門戸開放」の状況

【評価項目 5-0-2】 学生募集方法、入学者選抜方法

（必須要素）大学院研究科の学生募集の方法、入学者選抜方法の適切性

【評価項目 5-0-3】 入学者選抜の仕組み（学内推薦制度）

（必須要素）成績優秀者等に対する学内推薦制度を採用している大学院研究科におけるそうした措置の適切性

【評価項目 5-0-4】 入学者選抜方法の検証

（必須要素）各年の入試問題を検証する仕組みの導入状況

（選択要素）入学者選抜方法の適切性について、学外関係者などから意見聴取を行う仕組みの導入状況

【評価項目 5-0-6】 「飛び入学」

（必須要素）「飛び入学」制度の運用の適切性

【評価項目 5-0-8】 社会人学生の受け入れ

【評価項目 5-0-9】 科目等履修生、聴講生等

（選択要素）科目等履修生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性

【評価項目 5-0-10】 外国人留学生の受け入れ

（選択要素）外国人留学生の受け入れ状況

（選択要素）留学生の本国地での大学教育、大学前教育の内容・質の認定の上に立った学生受け入れ・単位認定の適切性

【評価項目 5-0-11】 定員管理

（必須要素）収容定員に対する在籍学生数の比率および学生確保のための措置の適切性

<2003 年度に設定した目標>

1. 学内外を対象として入試説明会を実施するなどを通じ、商学研究科の志願者の一層の拡大をめざす。
2. 入学者選抜方法を多様化し、質の高い多様な学生の確保を目指す。

（現状の説明）

現在の商学研究科の入試の制度は、①一般入試、②外国人留学生入試、③面接のみによる入試、④研究専門職コース推薦入試とからなる。

2003年度の①一般入試および②外国人留学生入試での受験者、合格者についてみると、他大学受験者は、15名中6名、合格者は、5名中3名、2004年度では、他大学受験者は、18名中12名、合格者は、10名中6名となっており、他大学生の受験者数、合格者数とも比較的高い数値となっていることがわかる。

③面接のみによる入試、④研究専門職コース推薦入試を含めた全入試で見ても、2003年度は受験者18名中6名、合格者は、8名中3名が他大学生であり、2004年度でも他大学受験者は、23名中12名、合格者は、15名中6名となっている。このように商学研究科は他大学に対して十分に門戸が開かれているといえる。

③の面接のみによる入試は、3年終了後に大学院に進学する「飛び入学」の場合、3年終了時点で、卒業必要単位を取得し、かつ全科目の平均点が86点（研究職コースの場合）、82点（専門学識コースの場合）以上であることを求めている。「飛び入学」ではなく、学

部4年終了後の進学の場合は、4年の春学期までの全科目平均が86点（研究職コース）、80点（専門学識コース）以上であることを求めている。④の研究専門職コース推薦入試についても同様の条件を課している。

入学者選抜方法については、①一般入試、②外国人留学生入試では、ともに商学一般、専門についての論文試験と、①の一般入試については外国語の能力を問う試験を、②の外国人留学生入試では、日本語能力試験1級もしくは日本留学試験（日本語）240点を求めている。また入試問題の難易度、外国語の分量などについては、商学研究科執行部で年度による極端なばらつきが無いかが検討している。

現在の収容定員に対する在籍学生数の比率は博士課程前期課程で0.73、博士課程後期課程で0.31となっており、質の高い学生を確保するため学内外を対象にした説明会を開催している。

（点検・評価の結果）

2004年度に引き続き2005年度も学内外を対象とした入試説明会を開催した。特に2005年度は春学期で2回開催、秋学期にも2回開催する予定である。これらの説明会はホームページ上で案内することもあり、学内生のみではなく、学外生の参加も多くいる。このような説明会を頻繁に行い、商学研究科の特徴をアピールしたことは受験者、入学者の増加につながったものと評価できる。入学者選抜の多様性については、2006年度入試からTOEFL、TOEIC、英検等の資格を有するものについては外国語試験を免除するなどの措置を取った。これにより外国語能力に優れた学生など多様な学生を確保することが期待できる。

（改善の具体的方策）

今後は説明会において現役の大学院学生との対話の機会や大学院の授業を体験するなどの工夫を加えることで商学研究科の特徴をアピールでき、質の高い学生を確保することにつながるものとする。また、入学者選抜方法で、社会経験を評価するなどより一層の多様化を目指すことで、質の高い多様な学生の確保を目指す。